第131回プリオン専門調査会
資料２より

起草委員による検討の概要

参考資料３－２

○第120回プリオン専門調査会での「評価の考え方（案）」※1を基本として検討する。

- 定型BSEについては、飼料規制等のBSE対策が継続されている中では、今後日本において発生する可能性はほとんどない。
- H-BSEについては、実験動物への感染実験の結果から人への感染の可能性は確認できない。
- 脳及び脊髄（30ヶ月齢超）は引き続きSRM対象であること、また、L-BSE牛のPrP^{Sc}の体内分布に関する知見を考慮すると、今回の審議では、L-BSE由来の脊柱（背根神経節：DRG）を摂食することによる~~人の~~vCJDを含む人でのプリオン病発症の可能性を判断する必要があると考えられる。

※1 第120回プリオン専門調査会 資料3より

○非定型について議論を行う前提として、以下の内容を確認。

・世界におけるBSE発生頭数の推移から、飼料規制の導入・強化により国内外において定型BSEの発生リスクは大幅に低下している。

・定型BSEについては、今後、日本において発生する可能性はほとんどない。

○L-BSE由来の脊柱（背根神経節：DRG）について人へのリスクを検討する場合、DRGは、脳やせき髄に比較し1/10程度の感染価（infectivity)を有して※2おり、ハザード（危害要因）として特定、記述が必要。

※2 EFSA,2011

評価にあたっての前提

✓各種の伝達実験の結果については、脳内接種より経口接種の結果を優先的に取扱う
✓*In vitro*(PMCA,RT-QuIC)の結果については慎重に検討
✓査読付きの公表論文を基本とする。

※1 研究報告については知見として記載をするにとどめる。
※2 論文を抽出する過程を明確にする必要性を検討する。